

2021年度関東甲信越支部総会の報告

2020年度総務委員長鈴木弘樹

今年度も新型コロナウイルスの緊急事態宣言を受け、昨年度は、書面審議かつ原則オンラインで回答をおこなったが、今年度は以下の方法で総会を実施した。例年実施している総会の実施方法は集合方式としている。その内容は、集合による表決と書面表決の総会であるが、今回は集合部分を対面ではなくオンラインで表決する方法で総会を実施した。総会通知時点の正会員数1,591名のうち、参加者は、総会成立要件である正会員数の10分の1以上（支部規約第9条3項）の495名（出席者数：41名 委任状数：225名 書面表決数：229名）であった。参加率は31.1%で、書面審議かつ原則オンラインで回答のみであった2020年度は36.1%、集合方式であった2019年度が37.8%であり、今年度は参加率が下がったが、各年度で開催方法が異なるため、単純に数値の比較はできない。しかし、例年より参加率が低かったことの要因を今後分析することが必要と思われる。

議案は第1号から第4号議案のすべて賛成多数により承認された。総会が無事開催され、スムーズな進行により運営されたことは、事前に詳細な準備を行った大西事務局長、オンラインを主導した広報副委員長の中澤副支部長及び常任幹事会の方々の尽力があったことを申し添えたい。

■第1号議案：2020年度事業報告承認の件

2020年度支部通常総会・役員会関連・各委員会・部会・各地域会の活動報告の概要の説明・報告が行われた（部会については時間の都合上、事前に送付した書面を確認いただいていることを確認し省略）。

■第2号議案：2020年度収支決算承認の件

収支状況及び貸借対照表、正味財産増減表、財産目録などの資料を基に説明が行われ、当期費用支出合計48,955,834円のうち、公益事業が28,167,001円、法人会計が20,788,833円で、公益事業比率が58%となった旨の説明が行われた。また、赤羽吉人監査より監査結果として適切に運営されていることを確認した旨の報告が行われた。

■第3号議案：支部役員選出規約改正の件

支部役員等第7条3) 支部幹事の支部常任幹事「5名」を「7名以内」とすることについて説明が行われた。

■第4号議案：支部役員及び監査選任承認の件

支部役員選出規約第2条2～5項の規定により支部役員及び監査候補者について選任する旨説明があった。

■報告事項1：2021年度活動方針について

資料をもとに2021年度活動方針説明がなされた。

■報告事項2：2021年度予算について

資料をもとに2021年度予算について説明がなされた。

■その他：会員集会と懇親会について

例年、総会当日に開催していた会員集会については開催を中止し、懇親会はZOOMによる「交流会」というかたちで開催した。目的は、JIA 活動を支えていただいている法人協力会員と正会員などとの交流を深める機会が極端に少なくなっている中で、少しでもお互いを知り合ってメリットに活かせる機会を増やすため実施した。参加者数は90名で、その内訳は正会員52名、法人協力会員30名、シニア会員1名、学生会員7名で実施した。

・実施スケジュールは以下の通りである。

<交流会> 16:40～18:00

16:40 開会・閉会の挨拶:慶野支部長

16:45～17:00 交流委員会でのセミナーの紹介と今後の予定の告知。メルマガ発行を紹介。

17:00～17:50 グループに分かれて交流（グループディスカッション）。グループディスカッション時にグループの決勝戦抽選会参加者を決定する。

17:50～17:55 決勝戦抽選会

17:55～18:00 閉会の挨拶:法人協力会員から

18:00 閉会

・今回の特筆すべき内容は、

- ① 初めてオンラインで交流会を実施し、正会員と法人協力会員などとの情報交換の場を設けることができた。
- ② 正会員と法人協力会員などとの交流を促進するため、グループに分かれ情報交換を図った。グループは6グループに分かれ、5つのグループは法人協力会員によるグループで、1つのグループは学生会員のグループである。総会の交流会（懇親会）にこれだけ多くの学生会員が参加したのは非常に意義あることで、今後も学生会員が気軽に参加できる会を目指し、他の会員との交流を促進していきたい。
- ③ 交流会の催物として、「リモートに役立つ驚きの IT グッズ」があたる抽選会を実施し、会全体が非常に盛り上がった。「リモートに役立つ驚きの IT グッズ」は、iPad1 台（128G、第8世代）、インカム 5台である。

・交流会の評価と課題

概ね時間通りにスムーズに実施でき、参加者からは大変有意義な会であったと多くの方から評価をいただいた。今後もこのような会を実施してほしいという要望も多く寄せられた。一方、各グループのディスカッションは、自己紹介程度で終了し、時間が短かったという指摘があった。また、一部の会では自発的に名刺交換をその後郵送などで行ったグループがあ

ったが、今回の機会が、オンラインで会うだけということではなく、お互いの交流を深めるため、今後、連絡先の交換方法を事務局で検討する必要があると考えている。

・総括

総じて次回開催への期待が大きく、今後課題を整理改善し引き続き開催していく予定である。

以上